

理科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて

ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
・観察、実験に関する基本的な知識、技能を学習や生活に生かすことのできる力	・問題を見いだす力や予想、仮説を発想し、実験結果から考察する力

	児童の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証(2月)
第3学年	ア 観察・実験用具の正しい使い方を身に付けている段階である。 イ 問題を見いだす力が不十分である。 イ 観察や実験の結果から、自分の考えを導きだす力が不十分な児童が多い。	ア 観察・実験用具を繰り返し使うことで、正しい使い方を身に付けていくとともに、次の観察・実験でも使おうとする意欲を育てる。 イ 提示された事象を基に、自ら問題をつくる学習を継続的に行う。 イ 予想と結果を比較したり、友達の考えを参考にしたりしながら自分の考えをまとめさせる。	ア 通年 イ 通年 イ 通年	
第4学年	ア 観察、実験に関する基本的な知識、技能を学習や生活に生かすことに課題がある。 イ 問題を見いだす力や予想、仮説を発想する力に個人差がある。	ア 観察・実験用具を繰り返し使うことで、正しい使い方を身に付けていくとともに、次の観察・実験に生かしていこうとする意欲を育てる。 イ 提示された事象を基に、自ら問題をつくろうとする意欲を大切にしながら授業を展開していく。 イ 予想と結果を比較したり、友達の考えと比較したりしながら自分の考えをまとめさせる。	ア 通年 イ 通年 イ 通年	
第5学年	ア 観察・実験に関する基本的な知識、技能を学習や生活に生かしきれていない。 イ 既習事項や生活経験と結び付けて予想や仮説を発想することに課題がある。	ア 児童が進んで観察や実験を行うことができるように、児童の問題意識から課題を設定していく指導を繰り返す。 イ 既習事項を振り返り、関係する生活場面と学習を結び付けながら授業を展開する。	ア 通年 イ 通年	
第6学年	ア 観察や実験の基本的な知識や技能を身に着けることができていないが、他教科の学習や自分たちの生活に生かすことは、できていない。 イ 予想や仮説を立て、実験の結果をまとめることはできるが、実験結果から考察することは難しい。	ア 既習事項を振り返り、関連する生活場面を取り上げたり、他教科と関連付けたりして授業を展開する。 イ 考察する際、捉えたい視点やポイントを提示する。	ア 通年 イ 通年	

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
3 年 児童の興味・関心に応じてタブレット端末を活用した調べ学習を行う。【重点：個別】 4 年 学習支援アプリに観察や実験結果を記録撮影し、学習に生かす。 【重点：個別】 学習支援アプリに実験結果を共有する。【重点：協働】 観察・実験器具の正しい使い方に関する動画を配信する。【重点：協働】 5 年 観察や実験結果の記録方法を個に応じて考えさせ、記録を共有することで学習の広がりをもたせる。【重点：協働】 6 年 学習課題に対して、自分に合った学習方法を選び、学習に取り組ませる。全体で共有する際は、ICT 機器を活用し、多様な考えに触れさせる。【重点：協働】	3 年 実験や観察の結果から、分かったことや考えたことをまとめる時間を十分にとる。 4 年 問題解決型の学習（問題作り→予想→実験・観察→結果→考察）を取り入れ、見通しをもてるようにする。 5 年 問題を意識した一連の問題解決学習を重視することで、見通しをもち結論を導きだす力を育成する。 6 年 一人一人の考察を関係付けながら、全体で結論を導き出せるようにする。